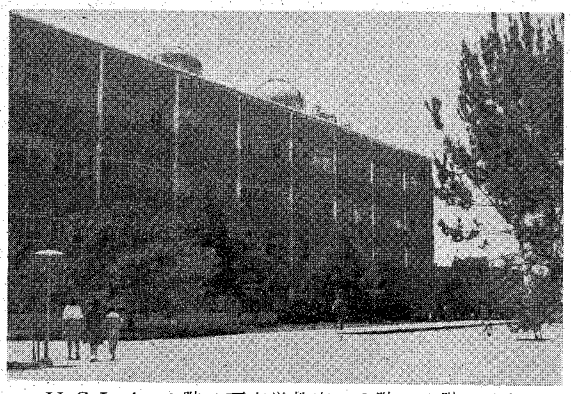
U. C. L. A. 便り

高　島　　勉*



U. C. L. A. 3階は天文学教室，2階，1階はそれぞれ気象学教室，数学教室となっている．

カリフォルニア大学は，9つの分校から成っており，これらを，1人の学長が統轄している．私がいるのは，その1つで，ロスアンジェルス郊外にある，U. C. L. A. (University of California, Los Angeles) と呼ばれているところである．この分校の学生数は，現在 24000 人であるが，1970 年には，27500 人に達する．この付近一帯は，丘が多く，大学もその丘の一つに建てられていて，近くを走るハイウエイからも，眺められる．また寮やアパート群も，それぞれ丘の上にあるので，通学するにも，坂を 1～2 回上ったり下ったりしなければならない．大学の建物は，スペイン風の古いものや，新らしく建てられた近代的なものが入り混っているが，全体的に赤レンガ造りが多い．1つ1つに名前がつけられているが，その多くが，人名である．

さて，私の入った気象学研究室は，数理科学ビルの7階にあり，その6階を数学教室，8階を，天文学教室が占めている．はじめての日，まず学部で登録を済ませると，建物使用許可証と，研究室の鍵を渡たされ，研究室に案内された．気象学教室は，現在9つほどの異った研究をしており，私達の部屋では，惑星大気における光学的現象と，輻射輸達の問題を，博士課程の人1人，修士課程の人 2 人が，助手のラオさんとともに勉強している．ちょうどラオさんは，印度に帰国中なので，当分は学生だけである．大学の時間は，月曜から金曜日の，朝8時より夕方 5 時までと，一応定められているらしいが，実際上の制限はなく，友人達の中には，夜 10 時頃まで残ったり，土曜日まで研究室に出て来て，勉強している者もいる．友人の話では，この教室には，印度や台湾からの留学生が，かなり多く来ているとのことだったので，興味を起こし，留学生掛へ行って尋ねてみると，現在気象学教室の大学生 48 人の内，留学生が 13 人であった．ところが不思議なことに，実際はこの比率以上に多い印象を受けるのである．もっとも留学生の多いのは，工学部で 135 人，ついで経営学部の 104 人，大学生の方もほぼ同数いるということである．UCLA には全部で，留学生が 1800 人，これを国別にみると，台湾 208 人，日本 150 人，カナダ 138 人，イギリス 119 人，インド 87 人，イスラエル 85 人，ドイツ 67 人，朝鮮 64 人，イラン 62 人，フィリッピン 58 人，の順になっていて，大学構内を歩いてみても，皮膚の色の白い人はもちろんのこと，黒い人，黄色い人に出会うことさえ，大して珍らしいことではない．また留学生の中には，女性も多く，半数位いるのではないかと思うことがある．中国人と日本人の区別が難かしく，日本人だと思って話しかけると，中国人であったりする．

大学に入るには，特別な試験はなく，高校の成績で決まるらしく，ここには上位 10% の人達が入って来るとのことである．

大学にはまた，数多くの付属研究所が設置されているが，その内でも私達の教室ととくに密接な関係を持っているのが，地球物理惑星物理学研究所である．この中にある宇宙科学センターでは，月や惑星の構造，惑星間物質，放射能帯の物理学，大気構造とその力学，地球磁気と太陽物理学などを研究している．天文学，地球物理学，化学，などを専攻する学生が，研究できるようにもなっている．実験室も沢山あって，非常に便利な所である．

ところで驚いたのは，テープレコーダーから記録紙にいたるまで，部屋の実験器具の多くが日本製品であることだ．もっとも，これは市中を歩いてもいえることで，たとえば，食堂で出るスプーンやフォークも日本製であることが多く，ときどき自分が外国ではなく，日本のどこかにいるような気持になってしまうことさえある．

私の部屋の人達はみんな物理出身で，大学近くの寮やアパートに住んでいる．ほとんどの人が助手をして学資を得ているが，これにはリサーチ・アシスタントと，ティーチング・アシスタントの2種類があり，年間 3000～4000 ドルをもらえる．しかし，生活費に 2000 ドル，学費に 1200 ドル位が必要なので，生活を十分楽しみなが

* 京大理

ら，というほどの余裕はないわけである．こちらでも本代は学生の悩みの1つらしく，台湾や日本の安い本をしきりに欲しがり，すでに数冊もっている者も少なくないが，カタログを手に入れたがっている連中も多い．

だれに聞いても，学資で一番高くつくのは，本代だと答える．そこで，図書館を利用することになるわけだが，常時必要とする専門用の図書は教室内に備えられている．数学，物理，天文，工学関係の図書は，私達の建物の続きにある工学部の図書室に，一括して置かれてあり，私達の用はおおかたこの辺で足りてしまうけれど，大学にはこの他，いろいろな目的に応じた図書館があって，その蔵書総数は 200 万冊以上になるという話である．本のコピーなども，図書室でやってもらえるが，その本より遙かに高価になってしまうらしい．

私がここへ来た時はすでに夏休みに入っていたが，金曜日午後3時から5時まで，不定期にゼミナールが開かれ，研究方法などいろいろと話し合いが行なわれており，内容もかなり高度な点まで議論されている．教授は主任ともなると，非常に忙がしく，会うには 1〜2 週間前から予約しておかなければならない場合が多い．教室では夏休みのため，かえっていろいろな人達が研究にやって来ている．たとえば，学位を取ってどこかに勤めていて，夏休みに大学へ来て研究するという人達もいるし，高校生のグループが，気象研究のために毎日昼からやって来て，教室で大学院生の指導のもとに講義を聴いたり実験をしたりしている．パンフレットで見ると，気象学教室は UCLA にしかなく，1940 年，ヤコブ・ブジェルネス教授が，当教室を創立したとある．現在主任教授はセケラ教授で，今年新たに日本から気象研究所の荒川先生を迎えることになった．海岸近くにあるサンタ・モニカにはランド・コーポレイションという大きな研究所があり，マリナー4号による火星の写真ができた時，ここの人が大学まで持ってきて説明をしてくれた．

寮やアパートなどの斡旋は，大学内のサービス・センターでしてもらえるが，構内のあちらこちらに立っている掲示板にも，貸アパートあり，とか，1人でアパートに入ると高くつくから，2〜3 人共同で入ることを希望する人達のビラがいっぱい貼ってある．寮は現在 8〜10 階建の大きなものが4つあって，合計 3200 人の収容能力を持つが，希望者の約 60% しか入れない．しかも入寮期間が9月から1月，2月から6月，夏休み，と別けられていて，それぞれの期間が過ぎると，一応部屋を離れなくてはならない．いまは夏休み中なので，大学の夏季プログラムがあって，これに参加する人のみが入寮できる．このプログラムは単位をもらうこともでき，カリフォルニア大学以外のところからも沢山の人が参加している．年令もさまざまで，高校の先生などもいるようである．

最後に日本語について少し書いてみよう．教室の友人や事務員の中には，簡単な日本語なら話せる人，あるいは現在勉強中の人がかなりいて，紹介の時に「あなたの名前はなんというのですか」と日本語で尋ねられたりした．そういう人に，こちらからおかしな英語を使うと，「ゆっくりと日本語で言って下さい」と頼まれる．もっとも時には，「あなたはいつ日本語を発ちましたか」などという愉快な質問に会うこともあるが，私が英語を話す時，みんなが笑いながら「解かった！　君の言いたいのは，こうこうこういう事だろう」と意を酌んで言い直してくれるような場合も少なくないのだから，この位ならば上出来といえるかも知れない．おおかた，人と話をする時には，その場の状況が重要な役割をするものではあるけれど，互いに意志が通じ合った時は嬉しいものである．街を歩いていると道を聞かれたり，エレベーターで話しかけられたりもするが，いろいろな人が，いろいろな英語を喋るし，時には，英語かどうか判断のつかないようなこともある．講義，講演，テレビ，ラジオ……とすべてが英語，しかも一日中英語で話していなければならないとなると，つくづく日本語の便利さを感じてしまう．とはいえ，寮や教室，あるいはよく行く物理学教室にも日本人，または日本語のできる人がいるので，毎日，日本語を聞いたり話したりする機会がどこかに出てくるようになった．ひどい日には，8割位を日本語で話していることもある．中国から来ている友人達も，彼らだけで集まると中国語で話している．英語もやはり外国語でしかない．英語を話したり聞いたりする機会はもちろん日本より多いが，上達するためには，アメリカにいてもかなりの努力が必要だと感じている．

地学天文教室

天文教材としての中型プラネタリウム

河　原　郁　夫*

中型プラネタリウム

現在，日本の各地で，プラネタリウムが公開されていますが，これらの多くは，県立，市立の理科センターとか青少年会館などに設置された中型プラネタリウムのようです．これらの中型プラネタリウムは大型プラネタリウムにくらべると，価格が 10 分の1くらいなので，割

* 神奈川県青少年センター・プラネタリウム